

第35周年記念展

「本佐倉城跡周辺の 史跡と自然」回顧録(一)

昨年10月に実施した発足35周年記念展「本佐倉城跡周辺の史跡と自然」は、大変な好評を得ることができ、郷土研究会にとっても意義ある事業となりました。今号からその概要をテーマごとに分け振り返ってみます。

酒々井宿の歴史と

町並みの様子

古川好夫・丸山正義
石井康子・寺本恵美

《千葉氏の時代》

酒々井は中世千葉氏の時代に、本佐倉城の総構えを構成する宿場として位置付けられ、城下町として栄えた。城下には家臣の屋敷をはじめ職人、芸人なども住み、市場も開かれるなど下総国の政治・経済・文化の中心地であった。

《徳川の時代》

天正18年(1590)、豊臣秀吉による小田原攻めにより千葉氏は北条氏と共に滅び、徳川家康が関東に入

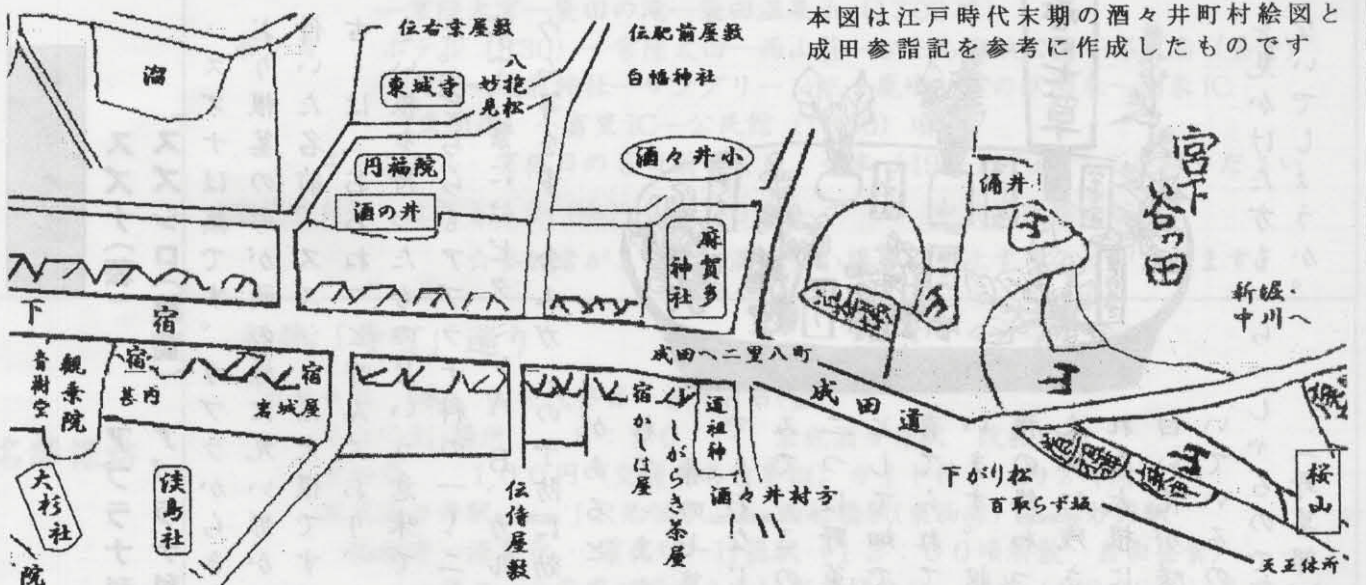
った。翌19年、最初に取り立てられた町が酒々井である。その後佐倉藩が成立し、城は佐倉に移転したが、酒々井宿は由来ありとして、そのまま佐倉城下町の佐倉6町(田町・新町(肴町)・弥勒町・本町・本佐倉町・酒々井町)の一つとして存続することとなった。また、成田道・芝山道などの要衝の地として栄え、宿場としての基礎が確立した。

《酒々井宿の家並みの様子》

酒々井宿は家並み4丁(約400軒)ほどで、新宿・上宿・仲宿・下宿・横町の5町で形成されていた。宿場であるから継立問屋、旅籠屋、茶屋などの店が立ち並んでいて、特に勝蔵院から八坂神社付近の仲宿が最も繁栄していた。

酒々井宿は大名行列の宿所となるような大きな宿場ではなく、宿継ぎの人馬(馬10頭、人足10人を常備)や駕籠などをそろえて、出張の役人や旅人などを泊める程度の宿場であった。旅籠屋7軒(陣内・阿波屋・佐野屋・笹屋・大国屋・中屋・米屋)と継ぎ宿1軒(かしは屋)、茶屋2軒(木村茶屋・しがらき屋)の名前が語り継がれている。

本図は江戸時代末期の酒々井町村絵図と成田参詣記を参考に作成したものです



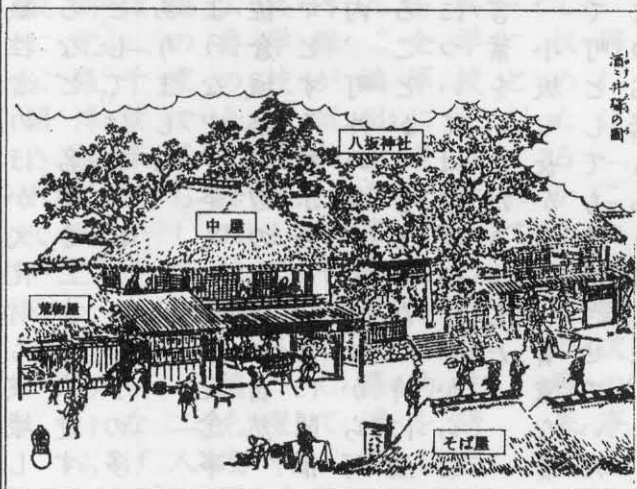
文化・文政(1804)~1821)の頃になると、成田不動尊や芝山仁王尊に参詣する旅人が頻繁に往来し、酒々井宿は大いに賑わったようである。なお、享保8年(1723)の記録には、宿場を形成していた町方は約130軒とあり、江戸末期の「酒々井町村絵図」(下図参照)にもそれに近い町並みが描かれている。

《酒々井宿と佐倉牧》

酒々井宿には徳川幕府の野馬会所御払い場が島田家屋敷内に置かれ、千葉氏の遺臣たちが牧士として、南北8里に及ぶ牧場と野馬数千頭の管理にあたっていた。この牧場は佐倉牧といわれ千葉、印旛、山武、香取の4郡にまたがり7つの牧場があった。その面積は約1800ヘクタールで、酒々井町の約9倍の広さであった。

放牧されていた馬数は約3000頭で、その中から毎年秋に、二歳駒を主として200頭前後捕えて御払いされた。御払い当日は近郷近在からの買人、博労、見物人等が大勢集まり、この時期の酒々井宿はお祭りのような賑わいであった。

酒々井驛の圖



成田参詣記：安政5年(1858)

《酒々井宿のお祭り》
かつて酒々井宿では7月に千葉氏時代の鎮守、大佐倉八幡神社の神輿が渡御し、「ばか馬乗り」・「競い馬」が行われた。また、8月には八坂神社の祭礼が16・17・18日の3日間行われ、飾り神輿・揉み神輿が渡御、さらに10月には麻賀多神社のお祭りで山車巡行と、宿中で3つの祭礼が執り行われ、近隣近郊の老若男女を集め賑わった。
明治維新後、佐倉藩廃藩、野馬牧廃止、鉄道敷設等により宿中の賑わいは絶え、新時代の到来で宿場の様子も大きく変貌することとなった。



「酒々井驛宿見取図」

第36回定期総会の報告

第36回定期総会が1月29日(日)、中央公民館研修室にて開催されました。はじめに岡田利光会長の挨拶、続いて東條三枝子教育長の来賓ご挨拶を受けた後、議長に古川好夫氏が選出され、議事に入りました。

まず、平成23年度事業報告と決算報告、続いて平成24年度事業計画及び予算案がそれぞれ審議され、いづれも提案どおり承認され閉会しました。

◆岡田会長挨拶要旨

昨年は恐怖の東日本大震災があり、

多くの犠牲者のほか文化財も破壊し流されるなど、名跡をこよなく愛する人間としては非常にダメージの多い年でありました。

このような中、発足35周年記念事業「本佐倉城跡周辺の史跡と自然」をテーマとする展示会を10月に開催し、町内、町外の多くの方々から好評を得ることができました。特に酒々井宿については古老の方々からお褒めの言葉をいただきました。

また、小坂町長からは「貴重な資料なので町としても活用させていた

だく」とのお話もありました。今年さらには検討を加え、郷土の研究グループとして幅を広げ、深く追求したいと思っております。

◆東條教育長挨拶要旨

歴史ある郷土研究会総会にお招きいただきありがとうございます。常日頃、町の文化財行政にご尽力賜り感謝しております。特に昨年10月23日の「史跡ウオーキング」実施に際し、皆様方のご協力のお陰で大変意義ある行事となりました。私も参加しま

したが楽しく歩くことができました。今年度も実施が予定されておりますのでよろしく願います。また、昨年の発足35周年記念展示会を拝見しましたが、会員皆様方の熱意と意欲がよく表われておりました。これからも積極的に情報を発信されることを期待し、郷土研究会の益々の発展を祈念申し上げます。

平成24年度 事業計画

事業名	回数	1期			2期			3期			4期		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 定期総会	1	○											
2 会報発行	4	○			○			○			○		
3 講座・学習会	郷土史講座	1							○				
	町内史跡巡り	1			○								
	史談会	8		○	○			○	○	○	○		○
4 研修・見学会	宿泊見学会	1				○							
	日帰り見学会	2	○								○		
	名勝探訪	4			○			○			○		○
5 野草の会	七草粥を食べる会	1		○									
	野草観察会	2				○					○		
6 役員会・運営委員会	5	○	○			○			○			○	

平和の礎「戦争遺跡」を歩く

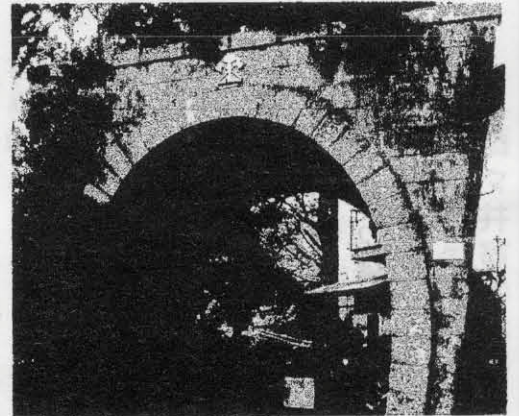
古川好夫

昭和16年12月8日、「ニイタカヤマノボレ一〇〇八」が海軍東京無線所船橋送信所から打電された。太平洋戦争の始まりでした。

千葉県は軍事的に帝都防衛をになつてきた。戦争の拡大とともに県下に次々と新しい軍事施設をもたらし、「軍郷」が形成されていった。

昭和20年7月7日、124機のB29による焼夷弾攻撃があり、千葉市街地の七割が焼失した。所謂、七夕空襲である。奇しくも12月8日、戦争の爪跡「戦争遺跡」を訪ねることになった。参加者20名、雨模様が災いしてかやや少なめなので5名ずつ4組を編成、研修部でガイドした。

千葉公園をスタート。ここは戦前鉄道第一連隊の演習用作業場でした。橋梁演習の橋脚やトンネル工事用のドームが現存していました。次に椿森公園に向かう。ここにはかつて鉄道第一連隊の在った所で鉄道大隊記念碑が在り、将校集会所の庭の築山が残っていた。近くに千葉連隊区司令部跡が在り、ここでは千葉県下の

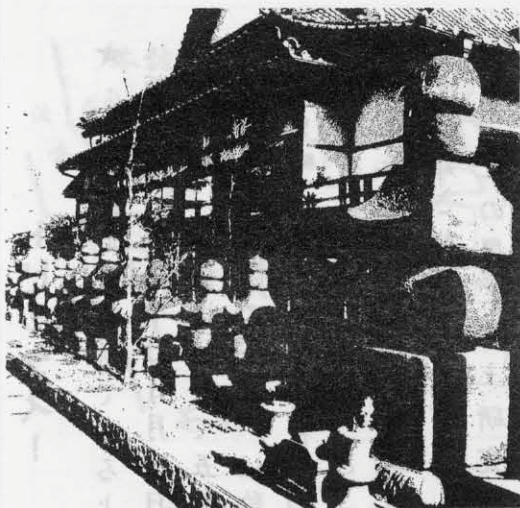


鉄道連隊トンネル工事用のドーム

徴兵、動員、召集、在郷軍人の指導にあつた。製作草園部公園に向かう途中

に、気球格納庫が一棟民間会社の倉庫として現存していた。作草部公園の辺りが陸軍歩兵学校跡で、園内に「平和の礎」の記念碑が建立されていた。碑には「この間数次の事変において収めたるかくかくの戦果は・・・」と刻まれている。

歩兵学校では歩兵の戦闘法研究、これを全軍に普及させる目的をもっていた。満州国皇帝愛新覚羅溥儀の実弟溥傑が昭和11年中尉として、陸軍歩兵学校に赴任している。翌年、嵯峨公爵の長女浩と結婚、稲毛浅間神社脇の家で暮らしていた。二人の住居は「千葉市ゆかりの家いなげ(愛新覚羅溥傑飯寓)」と名づけられ、一般に公開されている。



千葉氏16代墓碑の五輪塔 (見学途中の大日寺)

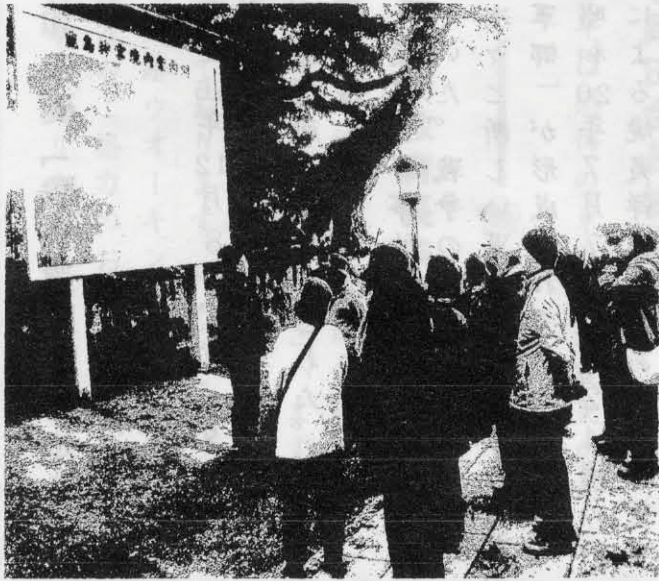
更に歩を進め轟町に入る。この周辺には陸軍歩兵器補給廠や鉄道第一連隊材料廠があり、国鉄千葉駅軍用ホームから引込線が敷設され、レール、枕木などが常置されていた。また、津田沼を経て松戸に至る軍用軽便鉄道の基地になっていた。千葉駅から西千葉まで「軍隊の町」といわれた弁天、椿森、作草部、轟、松波とぐるりと一周。ところどころに昔の面影が残り、兵士たちの闊歩する姿が目には浮かぶようでした。彼らの多くは戦場に駆り出され、少なからず犠牲となりました。戦後66年はまさに平和の歩みでした。これは彼らの犠牲の上にあることを忘れてはならないと思いました。

鹿島神宮初詣記

浜口信義

1月24日、昨夜の初雪による足元の悪さのなかを32名が常陸一宮である鹿島神宮へ初詣に参りました。白い酒々井から鹿島に近づくにつれ雪が消え暖かい日差しとなり、電車も神宮も人が少なく絶好の初詣となりました。

表参道は立つとあるべき大鳥居が無く、いきなり赤い楼門が見え、まるでお寺にきている感じでした。この奥は境内が21万坪といわれる森に杉などの大樹老木がうっそうと生え、神宮樹叢



高木副会長の説明に聞き入る参加者

として天然記念物に指定されています。山奥の深い森にいるような感じがする。山奥の深い森にいます。祭神の建甕槌神は武神として徳川

家康奥宮、水戸初代藩主頼房本殿拜殿、將軍秀忠楼門など徳川家による寄進があります。また境内にはいくらか掘っても深さがわからない「要石」、大人が入っても子供が入っても深さは乳までという御手洗池など不思議な所もあります。

拜殿前の宝物殿では慶雲元年1300年前に鹿島で採れた砂鉄で作ったという長さ275センチの直刀があり、また大和朝廷軍を苦しめたエミシの酋長悪路王(阿互流為)の首級の像があり、この他に平安期の発掘された木製狛犬や刀剣などがあります。とにかく珍しいものが多い印象の神宮でした。

帰りは佐原で昼食となり、私一人別行動で佐原の中心街を流れる小野川の舟巡りを楽しみました。舟から見る風景はまた異なった良さがあります。川岸護岸の壊れや川沿い家の屋根や壁の破損など先の地震の影響がまだ残っていました。帰りは雪も消えて遅い初詣の一日を終えました。

トピックス！

★・町指定文化財である上岩橋の獅子舞が、今年は4月1日に行われます。春祈禱として五穀豊穡を祈願するもので、舞いは駒形神社(9時30分)、菊賀神社(11時30分)、大鷲神社(14時30分)と、順次獅子舞保存会によりそれぞれ30分程度演舞されます。

★・このほど郷土研究会会報が酒々井町のホームページにりました。見方は酒々井町ホームページ↓観光情報↓観光スポット↓郷土研究会とクリックします。創刊号から現在までの会報を見る事ができます。ぜひご覧ください。

★・野草部の犬島正子さんと大沢博さんが平成19年より5年かけて調査した町内の植物について、町の助成を受けてこのほど小冊子『酒々井町植物総合編』としてまとめあげました。これを記念して3月1日より11日まで、教育委員会主催による写真展が中央公民館で開催されました。

なお、小中学校で活用される他、町図書館でも貸出しています。

見学案内

町内史跡巡り



双体道祖神巡り

4月15日(日)雨天中止
酒々井町には九つの双体道祖神が
あります。その内、七つの双体道祖
神を巡ります。

男女が仲良く手を取り、肩を寄せ
合う姿は、夫婦和合・子孫繁栄を願
っています。

地区では江戸時代から現在に至る
まで大事にお守りしています。
少し距離がありますが、ウォーキ
ングを兼ねて参加してみても如何で
しょうか。お待ちしております。

名勝探訪



行徳「寺町」巡り

6月6日(水)
雨天代替日 6月8日(金)

ここ行徳は「戸数千軒、寺百軒」
と呼ばれたほど寺や神社の多いところ
です。徳川家康が帰依した「徳願
寺」、地元の人からは塩場(しよば)

寺と呼ばれている「法善寺」など、
幅2坪ほどの「権現道」を歩いて散
策します。

また、江戸時代の行徳は塩の産地
でもありました。塩を江戸に運ぶた
めの水運が発達し、やがて成田山参
詣の人々も利用するようになり、1
812年に航路の安全祈願として、
船着場には「常夜灯」が建てられま
した。

江戸時代に栄えた行徳「寺町」の
雰囲気を味わってください。

宿泊見学会



水戸・袋田温泉方面

5月10日(火)〜11日(水)
山と緑の豊かな袋田の滝を見学に
行きましょう。

テレビでおなじみの黄門さまの隠
居所・西山荘も見学し、水戸文化を
堪能してきたいと思えます。
また、那珂湊では海の幸を満喫し
ます。お土産にもいいですね。近い
ですので、皆さんの参加をお待ちし
ております。

★借楽園 水戸市の丘陵上にあ
る庭園式の公園で、金沢

の兼六園・岡山の後楽園と並
んで日本三名園のひとつとさ
れている。

★西山荘 水戸光圀が元禄4年(1
691)の64歳から73歳まで
の晩年を過ごし大日本史の編
さんを行った場所である。
★袋田の滝 日本三名瀑のひとつで、
莊厳な岩肌を清流が水しぶきを
あげて流れ落ちる。
別名「四度の滝」とも言わ
れている。

郷土研日誌(抜粋)

Table with 3 columns: 月日 (Date), 内容 (Content), 参加者 (Participants). It lists various events and their attendance numbers.

郷土研行事案内

平成24年4月～6月

史談会	4月 休講	5月 休講 5月5日祝日のため 8月4日に変更します	6月 2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑦ 講師：高橋健一先生
町内史跡めぐり	<p>「双体道祖神巡り」</p> <p>4月15日(日) 雨天中止(小雨決行)</p> <p>集合時刻・場所 9:00 京成宗吾参道駅 階段下</p> <p>参加費 100円 ガイド付き</p> <p>弁当、飲み物、各自持参 歩行距離 約8km</p> <p>宗吾参道駅…柏木・双体道祖神…大仏頂寺…下岩橋・双体道祖神…上岩橋… …菊賀神社・双体道祖神…上郷自治会館(昼食)…新堀・双体道祖神…水神社・ 中川双体道祖神…京成酒々井駅(解散) 問合せ 岡田 [] まで</p>		
野草観察会	<p>「総合公園(墨)方面」</p> <p>4月24日(火) 雨天中止(小雨決行)</p> <p>集合時刻・場所 9:25 中央公民館</p> <p>参加費 200円</p> <p>弁当、飲み物、敷物等各自持参 14:00頃現地解散予定</p> <p>当日の問合せ 8:20～8:50 犬島(496-6258)まで</p>		
宿泊見学会	<p>「水戸方面」</p> <p>5月10日(木)～5月11日(金)</p> <p>参加費 25,000円 (観光バス利用)</p> <p>宿泊先 思い出浪漫館 ☎0295-72-3111</p> <p>集合時刻・場所 6:50 中央公民館前</p> <p>第1日 中央公民館(7:00)→成田→稲敷IC→(圏央道・常磐道)→水戸南IC →水戸市内(借楽園、好文亭、常盤神社)→水戸(昼食)→水戸美術館 →常陸大宮→袋田の滝→袋田温泉泊(17:00頃)</p> <p>第2日 ホテル(8:30)→常陸太田→西山荘→ひたち海浜公園→那珂湊(昼食) →大洗→磯前神社→サングリーン旭→鹿嶋→道の駅潮来→潮来IC →(東関東道)→富里IC→公民館(18:30)頃</p> <p>キャンセル 実施日の5日前までに、寺本 [] へご連絡ください</p> <p>《申込受付》 4月11日(水) 9:00～ 中央公民館ロビー</p> <p>☆参加者が30名に満たない場合、中止することがあります。</p>		
名勝探訪	<p>行徳「寺町」巡り</p> <p>6月6日(水) 雨天代替日 6月8日(金)</p> <p>集合時刻・場所 8:30 京成酒々井駅 改札口前</p> <p>参加費 100円(交通費各自負担) ガイド付き(約2時間)</p> <p>京成酒々井駅→JR船橋駅→西船橋駅(東西線)→妙典駅 …徳願寺…法善寺…常夜灯…行徳駅(13:00頃解散 自由昼食)</p> <p>(一部コース変更の場合あり) 当日問合せ 寺本 [] まで</p>		